

# インフルエンザについて

## 知ってほしいこと

Q インフルエンザに罹ったら抗インフルエンザ薬を使用した方が良いのでしょうか？

A 2009年日本感染症学会は「新型インフルエンザ患者には可能な限り全例に発病早期から抗インフルエンザ薬を投与することが最も重要である」と提言しています。一方、世界保健機構(WHO)などは、軽症者には原則抗インフルエンザ薬の投与は不要としていました。しかし、日本における新型インフルエンザの死者数は、米国の数十分の一で、日本において新型インフルエンザによる死者が少ないのは、早期受診と早期治療開始によるものとも考えられます。WHOなども、最近方針を変更し、抗インフルエンザ薬を積極的に投与するようになったようです。確かに抗インフルエンザ薬の投与が不要な軽症の患者さんが多くい

ると思いますが、軽症の患者さんが突然重症化することもあり、その予想はなかなかつきにくいものです。そこで、当面インフルエンザ患者には、可能な限り、全例に発病早期から抗インフルエンザ薬を投与することが望ましいと思われませんが、さらに検討されるべき問題です。

Q シーズンから使える薬が増えたこと聞きましたが、新しい薬で治療を受けたほうが良いのでしょうか？

A 従来から、タミフルとリレンザがインフルエンザに対する薬として使われてきました。前者は内服、後者は吸入薬として五日間使用することで治療が完了します。耐性ウイルスの出現を防ぐために、症状が良くなっても、きちんと五日間服用することが大切です。今シーズンは新たに二つの薬が使用可能になりまし

た。点滴で使用するラピアクタと吸入で使用するイナビルです。いずれも一回の投与で治療が完了します。単回使用ですので、従来の薬のように五日間の使用を確認する手間が省けます。しかし、ラピアクタは点滴で投与するので、インフルエンザの患者さんが、長く院内にとどまることになり、院内感染の機会が増え、また供給の問題や使用経験があまりない薬剤でもあることから、一部の患者さんには勧められません。イナビルは、リレンザと共に、タミフルの使用が制限されている十歳代の患者に対しては選択肢の一つと考えられます。しかし、一回だけの吸入が良い点が、逆に吸入の上手でない方には十分吸入できたか不安であり、かえって使いにくい点かもしれません。いずれにしろ昨シーズンまで使用されてきたタミフルとリレン

ザの有効性がある間は、新しい薬剤の使用は限定された患者に限られると思います。なお、成人一人の治療を完結するのに必要な薬代(薬価)は、タミフルを1とすると、リレンザが1.1、イナビルが1.3、ラピアクタが1.8となります。

Q いつから登校(出勤)できますか？

A 従来から、季節性インフルエンザに罹患した場合、発熱が消失した日の翌日から二日後まで出席停止とし、その翌日から登校可能とされてきました。また抗インフルエンザ薬を投与した場合、五日間は自宅待機が必要とする意見もあります。昨シーズン流行した新型インフルエンザに対しては、症状が出てから五日以内に症状がなくなった場合は症状が出た翌日から七日、症状が六日以上続いた場合は、発熱が無くなった日から二日を経過し、その翌日から登校または出勤するように指導されました。しかしながら、A型インフルエンザについては、新型か季節性の区別が、臨床の現場で明確にはなりませんし、新型の感染力が、季節

Q 重症化を防ぐために大切なことは何でしょうか

A 発症時軽症であっても、療養中に、急に重症化することがあります。日本小児科学会では、一度医療機関を受診した場合でも、次のような症状があった場合は、もう一度医療機関を受診することを勧めています。視線が合わない、呼びかけに答えられないなどがみられる場合。呼吸が早く息苦しそうな場合。水分が取れず、おしっこが出ない場合。療養中のお子様をなるべく一人にしないようにしてください。インフルエンザ患者の死因の一つに合併する細菌性の肺炎があります。肺炎球菌によるものが一番多いとされます。成人用の肺炎球菌ワクチンの接種率は、欧米に比較して、日本では極端に低いとされています。従来一生に一度しか打

てないとされてきましたが、現在では五年に一度の接種が可能です。年齢の方を含め、抵抗力の低下されている方は、積極的に接種をするべきだと思われま

Q 予防や人にうつさないために気をつけることを教えてください。

A インフルエンザの予防には、シーズン前のワクチン接種(接種二週間後から約五カ月間有効とされます)、シーズン中に人混みを避けて、外出から帰ったら手洗いがいい、咳が出る場合はマスク着用と咳エチケット(人に向かって咳やくしゃみをしていない、ティッシュで口や鼻を覆う)、罹ったら外出しないなどの注意が必要です。今シーズンのインフルエンザは、昨シーズンのように新型だけ

でなく、A香港型やB型も流行する可能性が言われています。Aソ連型の流行は無いと思われています。従って今年の三価ワクチン(一般に用いられているもの)は新型、A香港型、B型を含んでおります。

◆ ◆ ◆  
一昨年の本誌に、新型インフルエンザの一般的な話の他、妊婦さんや授乳に関する注意点を掲載させていただきました。えのきはらクリニックのホームページから見ることができます。

(えのきはらクリニック院長・  
獨協医科大学非常勤講師)



榎原 英夫  
Hideo Enokihara

昭和23年東京都生まれ。麻布高等学校卒、東京医科歯科大学医学部卒。昭和60年獨協医科大学第3内科助教授。平成10年えのきはらクリニック開院、獨協医科大学非常勤講師。日本内科学会認定医、日本アレルギー学会専門医、日本血液学会専門医、日本血液学会指導医、日本臨床血液学会評議員、日本医師会認定産業医

えのきはらクリニック

◆TEL 028-638-3515  
◆http://www.enokihara-cl.jp